

## 尾道市立大学芸術文化学部美術学科における学士課程教育に関する基本方針

### 1 アドミッション・ポリシー(入学者の受け入れの方針)

美術学科の教育理念は、美術における専門家として持続的に造形活動に携わり地域や社会の文化・芸術に寄与する人材を育成することにあります。学生諸君の美に寄せる豊かな個性を尊重しつつ、専門的知識・技術、芸術文化の理解、幅広い視野を身に付けさせ、専門的な実技教育を行うとともに学生相互の切磋琢磨の機会を設けることで、本学科の教育目標である、作家やデザイナーとして、あるいは美術教員や学芸員等として、持続的に美術に携わることのできる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目標に基づき、高校までの学修を通して培った理解力、思考力と美術の基礎的な表現力を前提とした上で、美術学科は次のような人を求めています。

- 美術への広い視野を常に持ち、自らの能力を高めていこうとする強い意欲のある人
- 自らの信念を持ち、将来にわたってそれを持続していける人
- 自己の可能性を信じ、その具現化に対しての努力を惜しまない人

### 2 カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1年次は、基礎実技を重視して基本的な造形能力を養います。全員が共通課題として、デッサン基礎実習、構成実習、彫刻実習を行います。つぎに3つのコース課題(日本画・油画・デザイン／総合基礎実習)を体験します。その後、各自志望コースの課題を選択実習し、自己の資質と方向性を吟味します。2年次からは3つのコースに分かれ、1年次で学んだ基礎力を踏まえて、それぞれの分野の知識や技術の修得に力を注ぎます。

### 3 ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

美術学科では、美術における専門家として持続的な造形活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材の輩出を目標としています。このことを踏まえ、所定卒業単位の取得と卒業制作に加え、以下の能力を身につけた学生に対し、学位を授与します。

- 専門分野の基礎的な知識や技術を習得し、自己表現の可能性を積極的に探究できる力
- 創作活動を継続的に行う能力や意欲
- 美術を学んだことにより身につけた視点やコミュニケーション能力を、社会や自己における新たな問題発見や解決につなげていける展開力や応用力